

報告② PIJ・モンゴル APDC とのオンライン交流会

ぱれっと・インターナショナルジャパン(以下 PIJ)とモンゴル障がい児親の会(以下 APDC)とのつながりは、2018年4月に代表のセレンゲ・サンブー氏の日本への1週間の招聘プログラムから始まっています。その直後にはぱれっとから数名が現地を訪問、さらに2019年の現地でのワークショップなどを経て、2020年には APDC のスタッフや障がい児の父母の招聘を計画していました。しかし、コロナ禍で3年延期となっています。この間セレンゲ氏や APDC スタッフとのオンライン会議を持ち、組織マネジメントや人材育成について通訳を介しながらレクチャーを行なってきました。本来であれば APDC の中心スタッフがおかし屋ぱれっとの現場で就労支援のノウハウを学ぶことが望ましいのですが、このタイミングでおかし屋ぱれっとの現場と APDC のスタッフや父母がオンラインでつながり、通所員の働く姿を目の当たりにし自分たちの子どもと照らし合わせ、モンゴルでのジョブコーチの在り方を探っています。

●ダイレクトにつながっています！

40名以上のお母さん方やスタッフがモンゴル全土から参加してくれました。日本とモンゴルとの時差は1時間、モンゴル国内でも東と西とでは1時間の時差があります。APDCの支部はモンゴル国内にまたがっています。日本時間の11時から正午まで生中継で臨場感あふれる交流を図りました。1時間という限られた中で就労の様子をうまく伝えられるか、事前にぱれっとの概要をモンゴル語

に翻訳したものを送り、当日は同時通訳をお願いしました。3年前に APDC との協働企画でモンゴルに出張した田代さん、村上さんは久しぶりの対面となりました。通所員一人ひとりを紹介しながらクッキーの生地作りの様子やしぼり、袋詰め、レーズン切り、工房でのらぶらび人形づくりなど細かい針仕事を見てもらいました。

●APDC 父母からの質問

実際に映像を見せながらの交流は現地の人たちにも大変刺激になったようです。後で送られてきた質問では、特に作業の安全面、衛生管理面、公的補助金の有無、商品の販路をどう獲得しているのか、工賃はどうやって計算しているのか、職員、障がい者の労働時間は、など大変現実的な質問が出ています。

次回の企画では、スタッフや父母のニーズが多かった本人を主体とした生活スキルアップといった就労前訓練と就労後のジョブコーチをテーマに勉強会を企画する予定です。



【世界とつながる新たな交流企画】

(PIJ 代表 相馬宏昭)